

かぞく百景

生活特報部 FAX 092(711)9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp

學術月刊誌 創刊60年

スタートは九大研究者の呼びかけ

教育と医学の複眼の視点から、子どもたちの育ちと学びをどう支えるか。戦後間もなく九州大学の教育、医学両学部の研究者有志が呼びかけ、発行を始めた学術月刊誌「教育と医学」が創刊60周年を迎えた。721号となる7月号には、「これからの中学校とは」と題して、多分野からのリポートが掲載されている。いじめや不登校、発達障害などの問題がクローズアップされる中、その活動の歩みは重みを増す。(佐藤倫之)

(佐藤倫之)

発行　叙月と医学

「よい子を育てる」を入口一ガント
発行された創刊号

言葉と現象の
言語学中
あり、学習障害（LD）、
注意欠陥多動性障害（AD-
HD）などの言葉も広まっ
ていく。

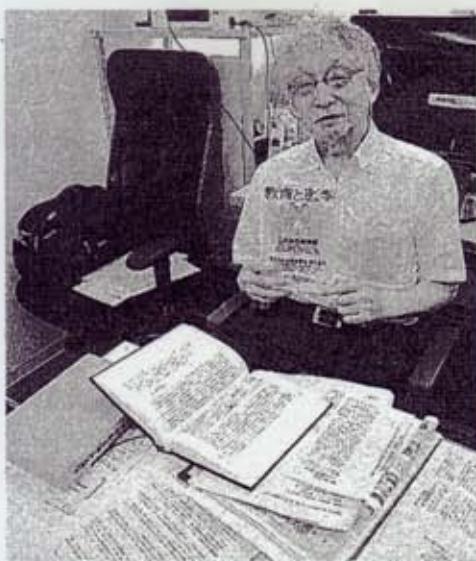
う医学用語を特集している。

教育と医学、複眼の視点

いじめや障害・重み増す活動

教育をめぐる動きを振り返ると、70年代は家庭内暴力、校内暴力。80年代になると、いじめや不登校が深刻化していく。「児童虐待」(二二)

10



721号となる「教育と医学」7月号を手に、活動の歩みを振り返る「教育と医学の会」の望田研吾会長

各学校に配置されている
が、当時はまだ聞き慣れない
言葉だった。
このテーマで当時、リボ
ート執筆に当たった一人
が、九大教育学部の成瀬悟
策さん(89)＝九大名譽教
授。成瀬さんは、脳性まひ
の子どもたちの動作改善
法(動作法)を考案し、実
践を続けたことで知られ
る。

テーマや執筆者の選考は、編集委員15人が毎月会
合を開いて決め、全国各研究者たちに執筆を依
頼する。編集作業は、趣旨に賛同した慶應義塾大
学出版会が、当初から担当してい
ている。1部720円で現
在、8千部を発行してい
る。

も加速する特集テーマに
り方を問い合わせるボートが
立つてくる。

☆ ☆

最近では、東日本大震災
を受けた子どもにとって
必要な災害時・災害後のケ
ア（11年1月）。今年5
月には「読み書きが苦手な
子の理解と支援」をテーマ
に「ディスレクシア」とい
う。子どもたちの心が見えな
い時代といわれるだけに、
心身両面からの研究、実践
がより求められている。望
田さんは「これからも時代
のテーマを見定め、研究者
ばかりでなく、教師や保護
者たちの指導や暮らしじも
役立つよう、より広く、分
かりやすく伝えていきた
い」と話している。

も加速する。特集テーマに「名田の取り組みを紹介し、学校や教員、制度のあり方を問いかねるボートが目立つてくる。」た。子どもたちの心が見えない時代といわれるだけに、